

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091400061		
法人名	社会福祉法人誠和会		
事業所名	グループホーム すみれの花		
所在地	福岡県福岡市早良区荒江3丁目20番3号 (電話) 092-833-1880		
自己評価作成日	令和 2 年 11 月 日	評価結果確定日	令和 3 年 3 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①毎月実施している地域カフェや地域行事・ラン伴にご利用者も参加して頂き、社会との繋がりの継続を図り、地域貢献活動にも力を入れています。②ご利用者の生活歴や趣味嗜好を考慮し、ご本人の意思やペースを尊重しその方らしい暮らし方や個別支援の充実を心がけています。③法人で、年間研修計画を立て他職種による指導や研修体制を整え、職員の質の向上に努めています。④施設内の庭園は、四季折々の植物や木々があり散歩や季節感を楽しめます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 3 年 1 月 14 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所周辺は戸建てやマンションが立ち並び、同じ敷地内には介護老人福祉施設と小規模多機能ホームがある。地域行事、防災訓練、認知症サポーター養成講座、認知症カフェなどで地域との関わりは深く、強い信頼関係がある。職員は「何とか利用者を楽しませたい」との思いで色々なアイデアを出し合い感染予防対策と平行して実践している。法人内研修はネット配信を活用しキャリアパス、スキルアップにつながるシステムを構築している。会議や行事、研修報告などの書類もきちんと整備しており内容も細かく記されている。管理者、職員は会議のみならず日頃から意見を言い合える関係性が保たれ、働きやすい環境作りを全職員が目指している。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人には、誠実・信頼・継続と理念がある。施設は「すべての方の人格を尊重し、共に歩み、共に喜びお一人お一人が主体性を持って地域での生活を継続出来るよう自立のお手伝いをさせていただきます」を方針として、会議などでも理解を深め意識向上と実践に努めている。	事業所の理念はフロアに掲示され朝礼では唱和している。管理者は日ごろから職員へ声をかけたり個別面談にて事業所目標が実践できているか確認を行っている。感染症まん延防止対策の中、できることは何かを考え実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、地域清掃や地域行事に積極的に参加している。毎月第3日曜日に開催している地域カフェには、ご利用者も参加して、地域住民との交流を深めている。買い物や散歩などでも地域の方と触れ合っている。今年度はコロナ感染予防のため、中止している。	地域カフェや公民館活動など、日常的に交流が行われていた。現在は感染症まん延防止のため活動制限があるが地域とのかかわりは大切にして時期を見て交流再開する予定である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の要請により、認知症サポーター養成講座やふれあいサロンへ講師を派遣している。月1回（第3日曜日）地域カフェを開催し地域の皆さんの交流の場を提供し、希望があれば、介護相談を行っている。今年度はコロナ感染予防のため、実施出来ない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	校区公民館長、地域包括、民生委員、校区社協会長、区長、地域の方、利用者が参加し、2か月に1回偶数月に開催。サービスの実際や取り組み等を報告し、評価、助言を頂き、サービスの向上に活かしている。地域の要望も頂き、地域貢献活動に活かしている。今年度はコロナ感染予防の為、2か月に1度各自宅に資料をお持ちして意見交換をしている。	現在は感染症まん延防止のため運営推進会議の資料を参加者に配布したり電話や郵送することで連携を図っている。資料内容としては事業所の活動報告、研修報告、行事報告、その他連絡事項がある。アンケートも実施して意見を集約し運営に活かせるよう工夫している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営で分からないことや相談事があれば、行政や地域包括に出向き助言をいただいている。認知症キャラバンメイトとなり、要請があれば出向している。（今年度は要請無し）	行政とは日頃から電話やメールで入居相談など連携を図っている。行政からの要請で認知症サポーター養成講座の講師として地域住民、小学校にて実践した。今後も活動が再開されれば協力する予定である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束委員会を設置し、委員を中心に取り組んでいる。ご利用者の対応やケアの工夫を話し合い身体拘束はしない取り組みを行っている。年2回内部研修を開催し、身体拘束をしないケアについて職員間に周知している。今年度はコロナ感染予防のため、外部研修に参加出来ない。	フロアは2階にありエレベーターでの出入りである。エレベーターは日中5時間程度は施錠せず自由に出入りできる。今後も防犯、安全確保に留意しつつ施錠しない時間を増やすことができるかどうかを含め委員会を中心に継続的に話し合う予定である。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないよう注意を払い、防止に努めている	法人内研修に参加し、職員の虐待防止に対する意識を高めている。又、虐待が見逃される事が無い様、変化や気づきの共有を行い防止に努めている。今年度はコロナ感染予防のため、外部研修に参加出来ていない。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族へ資料を配布し、ご家族からの相談に応じて、説明が出来るパンフレットを玄関に用意している。例年、外部研修で学ぶ機会を設けているが、今年度はコロナ感染予防のため、参加出来ていない。成年後見制度の相談があり、趣旨を説明し、資料を配布し、活用を勧め、地域包括と連携を取り対応を行った。	成年後見制度をはじめ権利擁護に関する研修は全職員がWeb配信による講座を受講している。受講後報告書を作成して、自己研鑽に努めている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、契約書、重要事項説明書を元に時間をかけて説明しています。利用者やご家族の不安や疑問を伺いながら他職種連携して説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族からのご意見ご要望があれば、出来る限り対応しています。面会時は、ご家族とのコミュニケーションを大切にして、ご意見やご要望をお聞きしています。又、ご意見箱を玄関に設置しています。苦情要望に関しては、第3者委員会に報告している。アンケートは3月に実施予定。	感染症蔓延防止のためレクリエーション、行事の活動に制限があるが利用者からの要望に応えるため車窓から景色を見るドライブを実践している。新年会では利用者による要望を聞き取り行事食のメニューに加えた。家族とは面会制限中だが要望に応え距離を取って面会や日常生活の写真を配布して不安が軽減されるよう努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の催し等、月担当を決め計画・実施・報告を職員が行っている。毎月1回グループホーム会議を実施し、職員の意見を反映している。また、他部署合同のミーティングを定期的実施し、その場で職員の思いや意見などを伝え、反映させている。	管理者はミーティングや個人面談で職員の要望を聞き取り運営に反映するよう努めている。職員からの要請で調理器具やリハビリ機器の購入につながった。職員間は何でも言い合える関係性が構築されチームとしてお互いが支えあっている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人キャリアパスにより、自己評価・他者評価があり職員個々の努力や実績によりレベルアップが可能で、給料に反映する仕組みがある。目標管理シート等により、各自目標に向かって向上心を持って働ける環境づくりを行っている。また、面談を実施し個々のモチベーションをあげられるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	本人の資質や介護に対する情熱を重視した採用になっており、事業所には、経験、年齢様々な職員が従事しています。得意分野で個人の能力を発揮してもらい、勤務形態は、個人の状況や必要に応じて検討し、働きやすい職場作りを心がけている。	法人として職員のスキルアップ、キャリアパスのシステムが構築されている。特に現在は感染症まん延防止のため外部研修参加が困難な状況だがネット配信される様々な講座を受講することで自己研鑽しやすい環境作りを果たしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職時新人研修や年間計画の中で、年2回の研修を計画し、外部研修参加も行っている。又、グループホーム会議にて、人権を尊重した対応の統一を図っている。また、ネット配信の研修を視聴し報告書提出もしてもらっている。今年度はコロナ感染予防のため、DVD視聴による研修を実施。	認知症高齢者に関する人権についてネットをあてて配信される講座を全職員受講している。認知症に関する医学的基礎知識、コミュニケーション技法などの内容で日々の介護につなげられるよう取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人は、職員育成マニュアルに沿って育成する仕組みがある。又、法人キャリアパスにより、レベル別に自己評価と自己目標管理シートにより目標設定して、年間を通じて自己研鑽と他者評価によりレベルアップと給料へ反映する仕組みがある。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さらさらにネットやグループホーム情報交換会「糸の会」の会員になり、ネットワーク作りやラン伴参加・研修会参加等により情報交換や施設の質の向上に努めている。今年度は実施されていない。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居初期には、特に時間をかけて、ご本人との関係性を築くように心がけています。担当者を置き、ご本人の様子の観察や課題を見極め、不安軽減や対応の工夫を職員で共有して、環境を整えご本人が居心地良く、安心して過ごして頂ける様心がけている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居初期には、特に時間をかけて、ご本人との関係性を築くように心がけている。ご家族の困っている事、不安な事、要望を確認して、施設側として出来る事を一緒に考えます。今年度はコロナの感染予防のため、面会にも制限があり、施設での様子をLINEやお手紙、電話等でお知らせしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や申込をされる際、現状の把握を行い、必要に応じて、併設他事業所職員と相談し、その方にとって安心できる必要なサービスの提案を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、敬う気持ちを持って日々接しています。又、その方の能力を發揮して役割を持って頂き、一緒に生活する仲間としての関わりを大切にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との関係性の継続を第一に考え、細かい事でもご家族と相談しながら、ご本人を支えています。又、面会時に近況報告やご本人の想いや願いを伝え、その方らしい暮らしや思いの実現にご家族にも協力して頂いています。又、ケアプランにもご家族の思いを反映している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙のやり取りや電話の取次ぎや知人の面会をご家族にも報告し又、馴染の美容室や病院にも、ご家族が協力し同行して頂いている。今年度は面会の制限があるため、ご家族の面会しか出来ていないが、電話対応等は継続して行っている。	利用者の入居前に本人や家族から生活歴や生活背景を聞き取りファイルにまとめ職員が共有して入居後も馴染みの関係性が保たれるように努めている。友人からの電話や手紙のやり取り、市外でも馴染みの場所を訪問するなど実践している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を観察し、リビング席の配置を考慮したり、他者への依存が強い入居者は、職員が仲介しています。利用者同士、時には慰め合い、励まし合い、助け合い支え合って生活しておられます。職員は見守り、必要に応じてトラブル防止に努めています。孤立しやすい方へは、職員が入り橋渡しをして関係性作りを行っております。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設入所となり、契約終了となった方も出来るだけお見舞いや様子を伺いに訪問していましたが、今年度はコロナ感染予防のため、実施出来ない。併設施設へ入所された方に対しては、行事等でお会いする際、ご家族やご本人に声掛け関係性の継続を心がけています。又、必要に応じて情報提供を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴・趣味・思考・性格を踏まえ、ご利用者の言葉やその時の気持ちを何よりも大切にしています。職員の価値観や経験ではなく、ご本人の価値観や経験から物事を捉え何を感じ何を考えられているのか、共感的に受け入れるよう努力している。	職員は利用者との日々の会話から、希望や意向を把握している。意思疎通が困難な利用者には、利用者の表情から汲み取ったり、家族や知人の訪問時に昔の様子や好きな事などを聞き取り、個人ノートに記入して職員間で情報共有している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に時間をかけて、生活歴・これまでの暮らし方・環境や利用したサービス等について幅広く情報を収集し、これまで何を大切にしてきたかや課題は何か等の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の場と時間を共有し寄り添う事で、ご利用者の1日の過ごし方や生活スタイル、リズムの把握に努めています。コロナ感染予防のため活動に制限があるが、その範囲内でご利用者のペースに合わせて出来る限り自由を保障して、ご本人の持っている力や思いの把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	収集したご利用者情報を職員間で共有し、グループホーム会議等で他職種と意見を出し合い課題の明確化を行っている。ケアマネ、担当者、法人内隣接看護師、管理者、家族の意見や要望を踏まえ担当者会議で立案しているが、今年度はコロナ感染予防のため実施は見合わせている。評価見直しはご利用者の現状に合わせて3ヶ月～6ヶ月毎に行っている。	担当職員が利用者の食事や活動の様子、力を入れて取組みたいこと等の利用者情報を担当の介護支援専門員に伝えている。家族や利用者、看護師等の気づき、主治医からのリハビリのアドバイス等を反映させて介護計画を作成している。利用者の状況の変化に応じてその都度、職員で話し合い、介護計画の見直しを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施記録を記入し、ご利用者の日々の様子、ケアの実地の記録は、PGにて随時入力し、職員間で情報を共有しています。毎月15日・月末には経過記録を入力し、介護計画にも反映している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ感染予防のため制限はあるが、その範囲内でご本人やご家族の様々なニーズに対して、可能な限り柔軟な対応を心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加や地域のお店への買い出し、毎月開催の地域カフェに利用者も参加して頂き、地域交流や社会参加を行っている。また、ラン伴のお茶出し等地域貢献活動へ参加して頂き、社会との繋がりを継続支援を行っていたが、今年度はコロナ感染予防の為、実施出来ていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご家族、ご本人の希望を尊重して、入居前からの継続を希望される方は継続して頂く、又、母体が協力病院であることから、入居後事業所の協力病院に変更される場合もある。受診が家族対応の場合は、定期的に生活状況やバイタル状況を主治医に書面で報告している。	これまでのかかりつけ医の希望があれば、家族が付添い受診している。普段と違う様子等を書面にして、かかりつけ医に情報提供を行っている。受診後は家族からの報告を受け、職員間で共有している。同法人の医療機関の受診を希望する場合は看護師が付添い、連携して受診を支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルの変化や生活の中での変化、気になる事は、その都度併設看護に報告して、専門的立場での対応を委ねている。必要に応じて、看護からご家族に相談して、受診対応の検討を行い、緊急時には受診対応を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合は、お見舞いに出向き、看護師や主治医などと情報交換を行っています。又、環境の変化による利用者の混乱時は、馴染の職員が出向き、安心して治療が出来る様対応している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を定め、契約時に重度化した場合や終末期の在り方について、ご本人やご家族の希望を伺っている。経過と共に考えが変わる場合があるため、その都度相談して頂くように伝え、緊急時対応や重度化について同意書を頂いている。法人内に病院や特養施設があり、安心の一つとなっている。	重度化した場合の指針が文章で定められている。入所時の契約では施設長、管理者、介護支援専門員、福祉部長が同席し、重度化について福祉部長より、家族に説明を行い、緊急時の対応や延命について意向を確認している。利用者の状況に応じて、希望を聞き、同法人の施設や医療機関を紹介している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で年間を通じて計画的に緊急時対応や緊急蘇生法、事故発生時の手順、夜勤開始時の研修等内部研修を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、年2回併設施設と合同で昼夜を想定した避難訓練を実施。運営推進会議の中に、避難訓練を計画し、地域の参加のもと訓練を行っています。隣のマンションの方が、地震が起きた際施設に異常なかったか心配して頂いた経緯もあり、地域協力体制が少しずつ築けている。今年度はコロナ感染予防のため、地域の方は不参加。	年2回法人全体で、消防署の立合いを促し、消防訓練を実施している。年に1回は運営推進会議時に訓練を開催して、地域住民の参加があり、協力体制を築いている。防災士の資格を持つ職員と連携し、地震や水害を想定した訓練も実施している。事業所内に3日分の飲料水や食料が備蓄されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の生きてこられた歴史や一人一人の人格を尊重し、個々に合わせた声掛けやプライバシーを尊重した対応を心がけている。	職員は周りに気付かれないようにそっと声かけている。オンラインで法人研修、日々の支援やコミュニケーションの中で、誇りやプライバシーを損ない関わりについて、管理者が指導している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の一方的な働きかけではなく、「ご本人がどうしたいのか？」発語が難しい方へは思いを探り、日頃の喧きに耳を傾け、思いや希望を伺いながら自己決定出来るよう心がけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中で、ご本人がどう過ごしたいのかを優先しての支援を心がけている。又、一人一人のペースを大切にし、出来る事への意欲を尊重し見守りながら、動きを把握しながら支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿って、訪問美容や馴染の美容室を利用しカットやカラーを行っています。化粧用品が不足時はご家族へ連絡し届けて頂いている。起床時、入浴後、外出の際の洋服の選択やアクセサリー等、その方の状態に合わせて声掛けや支援を実施している。今年度の訪問美容は、3月～4月はコロナ感染予防のため中止。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の食事は、法人管理栄養士が栄養バランスや季節を考慮して献立を作成し、厨房職員と共に調理を行っている。毎日の汁物やおやつ作り、料理の盛り付けや配膳、食器洗いはご利用者の出来る力を活かしながら職員と行っている。今年度はコロナ感染予防のため、おやつ作りのみ職員と一緒に調理を行っている。	糸島の農家と提携し、野菜を仕入れ、糸島の野菜を提供する際には、栄養士がメッセージカードを添えて、利用者一人一人に伝わるよう工夫している。利用者が食べたい物を行食事で取り入れたたり、個々に食べられるおやつと一緒に手作りして、食事を楽しめるよう支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし、摂取量の管理をしている。少ない方には、ご家族からの差し入れや好みの物を個別に提供している。食べやすい形態、飲みやすい方法を考慮して、その方のペースに合わせて提供及び介助を行っている。水分1日1000CC以上を目標に小まめな提供を実施。月1回体重測定にて、体重管理を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の力に応じて毎食後、声掛けや口腔ケア介助を行っている。その方の口腔状態に合ったケア用品を使用している。義歯は、毎日夕食後ポリドントにつけ必要に応じて、提携歯科往診を受診している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時にはタブレットを入力し、お一人お一人の排泄リズムの把握に努めて、失禁なく、快適で清潔が保持されるよう心がけている。介助が必要な方には、食事前後やご本人のサインを観察しトイレ誘導を行っている。その方の今の状態に適した下着、尿取りパッド等の検討を随時行い、自立に向けた支援を心がけている。	定時にトイレ誘導を行い、排泄チェック表をタブレットで入力している。利用者が立ってワウワする時など、サインを把握して職員が声かけしている。リハビリパンツで痒みが出る様子があれば、利用者の希望を聞いて、日中は布パンツで対応し、その後の感想を確認して、使用する種類や時間帯を検討している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表により、排便状況を職員間で共有し把握。必要な場合は看護へ報告して指示を仰いでいる。牛乳やヨーグルトなどを提供したり、散歩や運動を促し自然排便出来る様に支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人の意向、体調を確認した上で入浴の支援を行っている。湯船につかる事が好きな方に湯船をまたいで頂ける様、体操の時間に下肢筋力維持のための運動を行っている。入浴に抵抗がある方へは職員間で成功事例を共有して、声掛けを工夫し、抵抗が少なく安全に入浴して頂ける様努めている。	入浴を拒否される方には、声をかける職員、時間や声かけの方法を変えて工夫している。上手くいった声かけの方法を職員で共有している。利用者から、髪は洗いたくないなど希望があれば取り入れ、無理強いないで気持ちよく入浴できるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の生活習慣、体調、体力を考慮し、適度な休息、運動、就寝の支援を行っている。不眠傾向のある方には、日中の活動の満足度を高めたり、散歩や日光浴を実施。飲み物提供時はカフェインの摂取時間や量にも配慮。就寝に向けた環境作り（照明やヒーリング音楽）を行い、夜間の安眠に繋がる様努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報をファイルに入れ、いつでも確認できるようにしている。予測される副作用については、職員間で共有し、異常の際には看護報告を洗濯している。薬の変更があれば、申し送りを通じて周知している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯、掃除、片付け、生け花等生活の中で、その方の出来る事、出来そうなことを探し役割を持って頂いている。音楽、新聞等その方の生活歴に応じた支援を行う。コロナ感染予防のために制限はあるがその中で希望に応じての散歩等、出来る事を提供し、施設での生活が楽しいものであるよう心がけている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防のため、制限があるがその中で出来る事を実施中。また、ご本人の「○○したい」等の声には、出来る範囲で日中施設で実施。外出関係は外出計画を立て、車内から下りないドライブを実施。「○○が食べたい」等の声がある際はおやつ作りで対応している。	利用者の行きたい場所や、催しに参加できるよう計画をたて、家族と協力して外出できるように「願いかなえ」を事業所で取り組んでいる。利用者から散歩に行きたいと希望があれば、職員と一緒に施設内を散歩している。行事食の食材の買い出しに職員と一緒に行く機会がある。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて金銭はご自分で管理されています。難しい方でも、不安の強い方には、お財布をもって頂き、紛失しない様見守っている。お買い物の支払いは、状況に応じて見守りながら支援している。今年度はコロナ感染予防のため、お買い物中止。外出時は職員が希望を聞きながら購入してお渡ししている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方もいらっしゃいますが、持っていない方は、希望時施設電話を使って頂きます。又、遠方からの電話や手紙の取次ぎを行い、関係が途絶えない様にしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの椅子やテーブルはご利用者の希望や状況に応じてレイアウトを変え、居心地良く過ごして頂ける様工夫している。今年度はコロナ感染予防のため、対面の席にならない様にしました。毎週木曜日には、季節の花が届けられ、ご利用者が生けた花を飾っている。対面式キッチンからの、お料理の香りで生活館を感じて頂き、窓から見える高木樹で季節感を感じて頂いている。	リビングや廊下には、利用者と一緒に制作した季節の装飾や書初めが飾られている。利用者は思い思いに部屋やリビングのソファでゆっくりと過ごし、職員との会話が弾み、家庭的な雰囲気となっている。事業所の玄関にはベンチが設置され、おやつを食べたり、庭の木々を眺めたり、リラックス出来る空間となっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーター横の椅子、リビングのソファ、食堂テーブル、廊下イス等で思い思いに過ごされています。又、玄関前のベンチは、散歩後の休憩や木々を眺めリラックスできる場所として皆様お気に入りの場所です。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、出来る限り今まで使っていた慣れたものや好みの物の持参して頂き、ご本人の居心地いい空間づくりを心がけている。少しでも安心して過ごせ、ご自分の居場所だと思って頂けるように配慮している。	利用者の居室には、使い慣れた椅子や筆筒、棚が持ち込まれて、居心地よく配置されています。家族の写真や、利用者の趣味の作品、観葉植物が飾られて、利用者の個性あふれる居室となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの状況に応じた生活導線に家具や物品の配置を行い、必要に応じて手すりやお部屋を真っ暗にする方には点灯センサーの設置・尿意はあるがトイレの場所が分からない方には、センサーマットを使用して、職員が声掛け見守りする事で自立を促す等出来限りご自分の力で行動できる環境作りを行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		